

**令和6年天皇誕生日祝賀レセプション**  
**林肇駐英国日本国特命全権大使 御挨拶（和文）**

令和6年2月28日

御列席の皆様

本日は、文字通り在英国在留邦人、日英間の友好団体とビジネスを代表する数多くの素晴らしい御来賓の皆様が当館にお越し下さり、妻共々心より御礼申し上げます。2月23日に64歳を迎えられた天皇陛下のお誕生日を、こうした御来賓の皆様とお祝いできることを、大変嬉しく思います。

昨年5月にはチャールズ3世国王陛下の戴冠式が行われ、天皇陛下の御差遣として秋篠宮皇嗣同妃両殿下が御出席されました。一方、本年は、我が国では能登半島地震の発生で多くの尊い命が失われた大変な幕開けとなり、また英国においては国王陛下がご病気で治療中ということが判明し、チャールズ3世国王陛下と天皇陛下の間でそれぞれお見舞いのメッセージが送られたと承知しています。これらのエピソードは、我が国の皇室及び英国王室の双方が、心が躍る時にも心が痛む時にも、お互いと共に在るということを示しており、両国の絆をも象徴するものだと感じます。

本日ここで、天皇陛下の益々の御健勝と国王陛下の早期の御回復、我が国の皇室及び英国王室双方の御繁栄、並びに日英関係の更なる発展を、皆様とともに改めて祈念したく存じます。

御列席の皆様

昨年は、国際社会が深刻な挑戦（challenges）に見舞われた厳しい年でしたが、我が国と英国との関係において、非常に重要な進展が数多く見られた、豊かで実り多い特別な一年でもありました。日本はG7議長国を務め、5月にはG7広島サミットを開催しました。その機会に、岸田文雄、リシ・スナク両首相は、「強化された日英のグローバルな戦略的パートナーシップに関する広島アコード」を発表し、首脳間での強固な関係が再確認しました。加えて、「日英部隊間協力円滑化協定（RAA）」の署名・発効、日本・英国・イタリア三か国間で、「グローバル戦闘航空プログラム（GCAP）」のために政府間機関を設立する条約の署名が行われ、安全保障・防衛協力がさらに進展しました。多国間の国際場裡でも、日本が現在非常任理事国を務める国連安全保障理事会を通じて、日英で連携し、とりわけ法の支配を推進しています。経済面でも、「環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（CPTPP）」への英国の加入議定書が署名され、日本が他国に先駆けて同議定書の国内手続を完了しました。また、人的交流の観点でも、昨年11月には日英の外相間で人的交流に関する覚書が署名され、日本のワーキング・ホリデー制度及び英国のユース・モビリティ・スキームに基づく査証の発給数を劇的に拡大することが確認されました。

加えて、喜ばしいことに、英国においてはインフレが沈静化する兆しが見られ、日本においては、最近東京市場で最高の株価が記録されているように、経済が回復基調にあり、それぞれのビジネス環境が大きく改善しています。こうした中で、日本から英国へ、英国から日本へと、双方向で、投資の拡大と連携の強化が日英の企業間で一層進むことを強く期待しています。

さらに、昨日は、英国国会の上下双方の議院から多くの議員の皆様にもお越しいただきました。このことが示すとおり、立法府関係者の往来も活発です。これから日英双方とも政治の季節を迎えますが、日英パートナーシップの重要性は党派を超えて強く認識されているものと信じています。司法府の間での交流も進展しており、昨日お越し下さったリード最高裁長官が、昨秋に訪日の上、我が国の最高裁関係者らと意見交換を行ったほか、天皇陛下にも御面会されています。

文化面でも、日本の魅力を発信しているジャパン・ハウス ロンドンが開館5周年を迎え、これまでに総計180万人以上の来訪者を記録しました。昨秋には、トラファルガー広場で4年ぶりとなるジャパン祭りが開催され、4万人以上が来場し多様な日本文化を楽しんでいました。ロイヤル・バレエやバーミンガム市交響楽団など英国を代表する文化団体では日本人の卓越した芸術家が活躍しています。映画の世界はもちろん、英国が世界に誇るロイヤル・シェイクスピア・カンパニーによる舞台でも、「となりのトトロ」の再演が大変な人気です。スポーツの世界では、特にサッカーで男子も女子も日本人選手が続々と英国の各チームに移籍して活躍しており、目が離せません。

私が大使として、妻とともに着任した3年前の2021年2月時点から振り返ってみても、このように枚挙に暇が無いほどの多層的な日英関係の深化が見られ、非常に感慨深く思います。日頃から日英関係を支援くださっている皆様をなるべく沢山御招待できるよう、実は、本年の天皇誕生日祝賀レセプションは、昨晚及び今晚と2夜連続の開催としています。この機会に改めて、皆様の御尽力に感謝いたします。

#### 御列席の皆様

天皇陛下は、皇太子でいらした頃の1983年から約2年間オックスフォード大学に御留学しておられ、その時の御経験を『テムズとともに 英国の二年間』という御著書にまとめておられます。初版は1993年に日本で出版されましたが、その刊行30年を記念し、昨年4月に本邦において同書の復刊が実現しました。巻末には天皇陛下がお書きになった『復刊によせて』が追加され、その中で、オックスフォード大学を母校とする皇后陛下と共に、いずれ遠くないうちに再訪されたいとの御希望が述べられています。本日は、天皇陛下が御在籍されたマートン・コレッジの聖歌隊も参加下さり、素晴らしい歌声を聞かせてくださいました。

本日の当館でのレセプションにおいては、ゲストの皆様に、生け花や盆栽、茶道といった日本文化に触れていただくと共に、日本の地方の様々な特色を味わっていただけるよう、各地の自治体の誇る名産品等を提供する様々なブースを用意しております。ゲストの皆様におかれては、ぜひ全てのブースにお立ち寄りいただき、我が国の多面的な魅力を感じていただきたいと思っております。最後になりましたが、協力くださった自治体・企業・団体の皆様に、心から御礼申し上げます。

御静聴ありがとうございました。

(了)